

岩手県第 7 1 回原状回復対策協議会資料

資料 2 「県境不法投棄事案の教訓を後世に伝えるための検討ワーキンググループ」の
活動報告 - 跡地利用策に係る苗木植栽試験 -

「県境不法投棄事案の教訓を後世に伝えるための検討ワーキンググループ」の活動報告 －跡地利用策に係る苗木植栽試験－

1 試験の趣旨

現地で苗木を植え育てることは、現地の厳しい気象及び土壌条件から、相当の困難が予想される。今後、現地での植栽計画を着実に進めていく上で、前もって植栽試験を行い、植栽苗木の成長を阻害する因子を見極め、対策を練る必要がある。

供試樹種は、カラマツとウルシである。カラマツは現地での適応が期待される樹種、ウルシは生育不良が懸念される樹種であり、これら特性の異なる2樹種の成長反応を通じて今後の植栽のあり方を示唆する有用な情報が得られる。

2 試験の実施

(1) 日時 2017年5月1日 10時～12時

(2) 参加者 12名

協議会ワーキンググループ 橋本リーダー

岩手県廃棄物特別対策室 佐々木課長他3名

日本国土開発(株) 県境水処理作業所 佐藤所長他1名

岩手大学農学部造林学研究室 白旗助教他院生・学生4名

(3) 植栽苗木

カラマツ 岩手県山林種苗協同組合配布種子から育成(生産)、40本

ウルシ 二戸市上斗米産種子、WGリーダー橋本育成、30本

(4) 関連事項

試験地では気象観測機器及び土壌環境測定機器を設置しデータ収集している。また、同一設計の試験を岩手大学構内の実験圃場で現地との比較のため並行実施した。

写真 植栽前の苗木 カラマツ(左上)、ウルシ(右下)



カラマツ

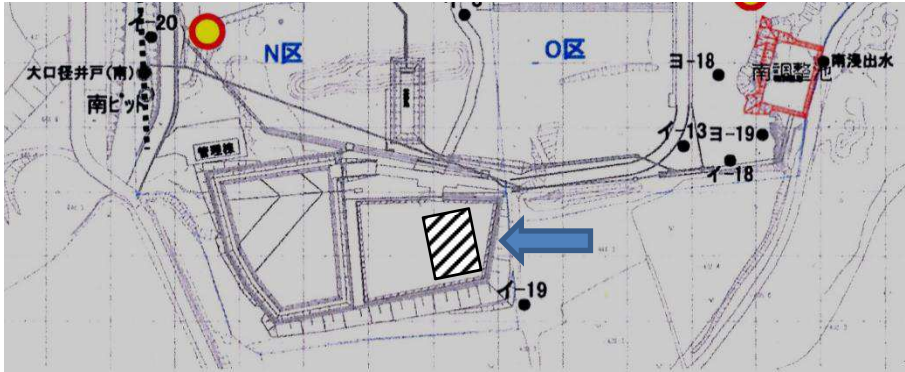
マツ科カラマツ属、落葉針葉樹、東北・関東・中部の亜高山帯に分布、新緑や黄葉が好まれる、現在岩手県で最も多く植栽されている林業樹種。

ウルシ

ウルシ科ウルシ属、落葉広葉樹、中国から日本に持ち込まれたとされるが元々日本自生の説もある、樹皮を傷つけ生漆を採る、浄法寺産漆は高品質で有名。

試験地位置図と試験設計

管理棟南東の非汚染土仮置場跡地



試験地面積 25m×17.5m
 方形植え 2m 間隔

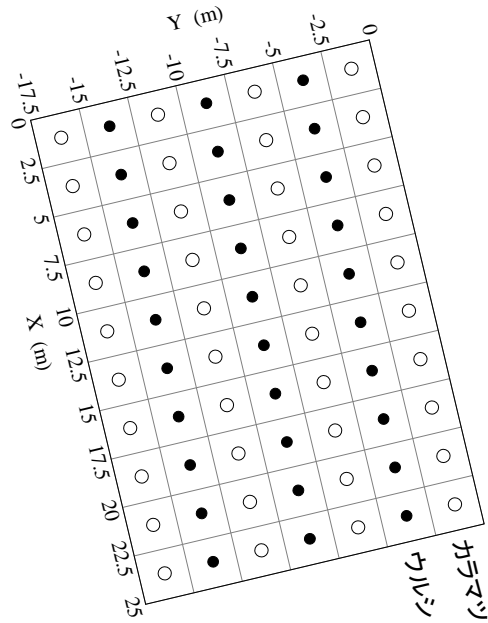


写真 植栽前の植穴掘り（左）と植栽（右）

